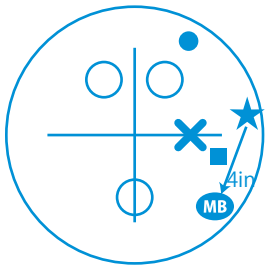
ボールの特性レポート
BALL REPORT

ボール名	投球者	センター
716T	徳江 和則	平和島スターボウル

RG	△RG	
2.510	0.057	● ピン　★ PAP　✕ CG　■ バランスホール

テストボール：716T



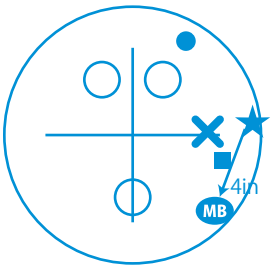
フレアーの幅：　インチ

PAPからピンとの距離：4 インチ

表面加工：☑箱出し状態　☐加工　☐ペーパー　☐ポリッシュ　番

研磨剤

比較対照ボール：716C

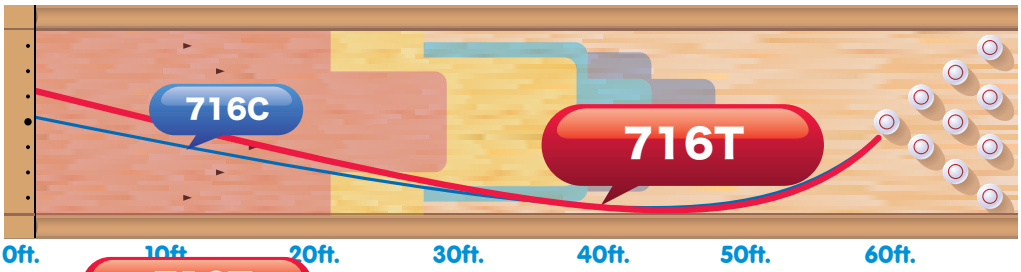


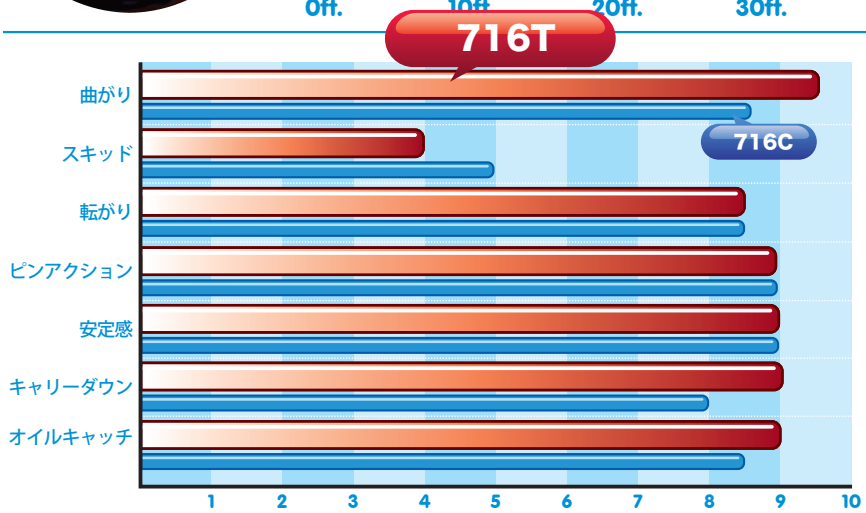
フレアーの幅：　インチ

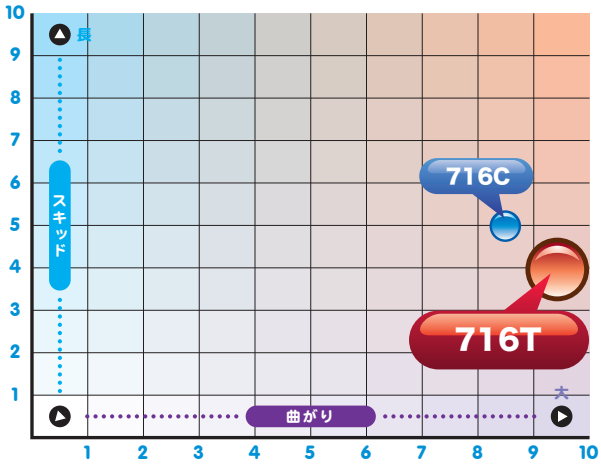
PAPからピンとの距離：4 インチ

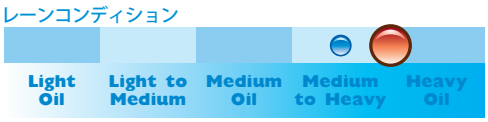
表面加工：☑箱出し状態　☐加工　☐ペーパー　☐ポリッシュ　番

研磨剤









ボールの評価

記憶に新しい2011年全日本女子プロボウリング選手権でのファイナル。両者打ち合いで勝負は結するも、双方選択したボールはトラック社716C。光沢があっても強いキャッチと鋭いバックエンドモーションで観客を魅了しました。そして今回は私が一押しする最新作716Tをご紹介致します。

まず初めに皆様に知って頂きたいのは、現代のカバーストックで"T"という名称で表されたトラクションを出そうとした場合、以前感じていたような「手前のキャッチだけ強く、バックエンドリアクションは減少傾向になる」という、ミスマッチになるような仕上がりはどのメーカーでも今はほとんど見かけなくなりました。「表面は曇っていても手前からの強いキャッチ力もあり、バックエンドまでしっかりと動く」。現在のテクノロジーでは手前からのキャッチを優先しても、明確にバックエンドリアクションが表現できるものへと変わってきています。この716Tにも同じことが言え、"7"で表現できる以上のキャッチ力を手前から感じ、減速どころか鋭いと感じるほどのバックエンドモーションを得られることのできる、"7"という強さ以上を「手前と奥」で感じられるHI-パフォーマンスボールであると投げた貴方は感じて頂けるでしょう。前回発売された716CもかなりHI-スペックでキャッチの強さも感じましたが、同じ"7"でもかなりの差を感じます。逆にこれ程まで差があれば、716Tの後に716Cという図式のレパートリーも組むことができ、ヘビーからミディアムまでのコンディションは盤石であるとも言えます。ただ単に表面加工だけを変えるのではなく、同じ"7"シリーズの中にリアクションイメージを変えずに手前のキャッチとバックエンドリアクション双方をバランスよく強化させている716Tはトラック社テクノロジーの結晶とも言えるでしょう。

特記事項

今回の716Tと前回の716Cは「鉄板中の鉄板」のボール。
この二つのボールを投げなくて、現代のトラック社のパフォーマンスは語れません。